

2020年3月期 第2四半期決算 連結業績概要

2019年11月11日

太陽誘電株式会社
経営企画本部長
増山 津二

決算サマリー

2020年3月期第2四半期 業績概要

- 売上高733億円(前四半期比7%増)、営業利益107億円(同12%増)で増収増益。

2020年3月期上期 業績概要

- 営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は5月時点の業績予想を達成。
- 売上高と親会社株主に帰属する当期純利益は過去最高を更新。

2020年3月期 業績予想

- 業績予想は、期初予想から見直しをしていない。
- 2019年10月に発生した台風19号による業績への影響を調査中。

2020年3月期第2四半期 業績概要

売上高は第1四半期から7%増の733億円。
営業利益は12%増の107億円で第1四半期に対して増収増益を達成。

2020年3月期上期 業績概要

営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は
5月時点の業績予想を上回った。

売上高と親会社株主に帰属する当期純利益は
半期ベースで過去最高を更新。

2020年3月期 業績予想

通期の業績予想は、5月に発表した期初予想から見直しを行っていない。

2019年10月の台風19号により、当社子会社の福島太陽誘電で浸水被害が発生。
業績への影響を調査中。

第2四半期 連結業績概要(前四半期比)

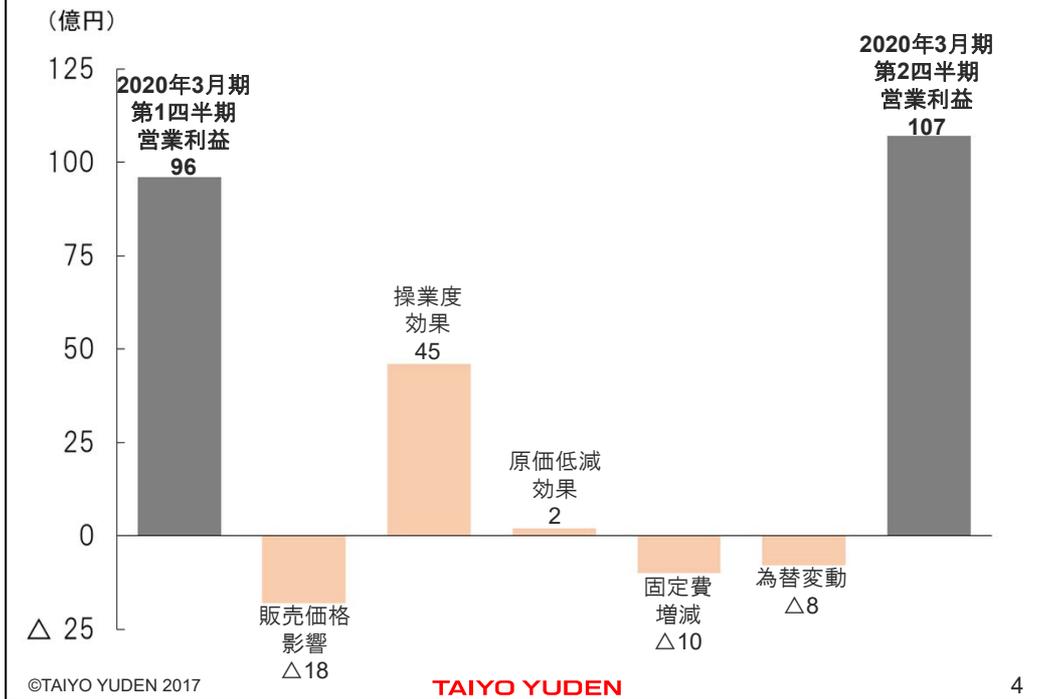
百万円	2020年3月期 第1四半期		2020年3月期 第2四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上高	68,635	100.0%	73,272	100.0%	4,636	6.8%
営業利益	9,595	14.0%	10,703	14.6%	1,108	11.5%
経常利益	8,846	12.9%	10,330	14.1%	1,484	16.8%
親会社株主に 帰属する当期純利益	7,151	10.4%	8,180	11.2%	1,029	14.4%
対米ドル期中平均レート	110.95円		107.58円		3.37円円高	
為替変動による影響額	売上高 △17億円、営業利益 △8億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	3,160		3,265		105	3.3%
設備投資額	8,605		8,744		139	1.6%
減価償却費	6,338		6,560		222	3.5%
©TAIYO YUDEN 2017				TAIYO YUDEN		3

2020年3月期第2四半期の業績は
売上高733億円、営業利益107億円、経常利益103億円、
親会社株主に帰属する当期純利益は82億円。

期中平均の為替レートは1米ドル107.58円、第1四半期に対して3.37円円高。
これによる影響額は売上高に対してマイナス17億円、
営業利益に対してマイナス8億円。

研究開発費は33億円、設備投資額は87億円、減価償却費は66億円。
いずれも、第1四半期からやや増加。

第2四半期 営業利益増減要因(前四半期比)



第2四半期 営業利益の増益要因として、操業度効果45億円。
操業度効果とは、販売数量増減やミックス改善、棚卸資産の増減など。
9月末の全社の棚卸資産は、為替影響など利益に影響がない部分を除いた
実態ベースで6月末より6億円増加。

このほか、原価低減効果2億円が増益要因。

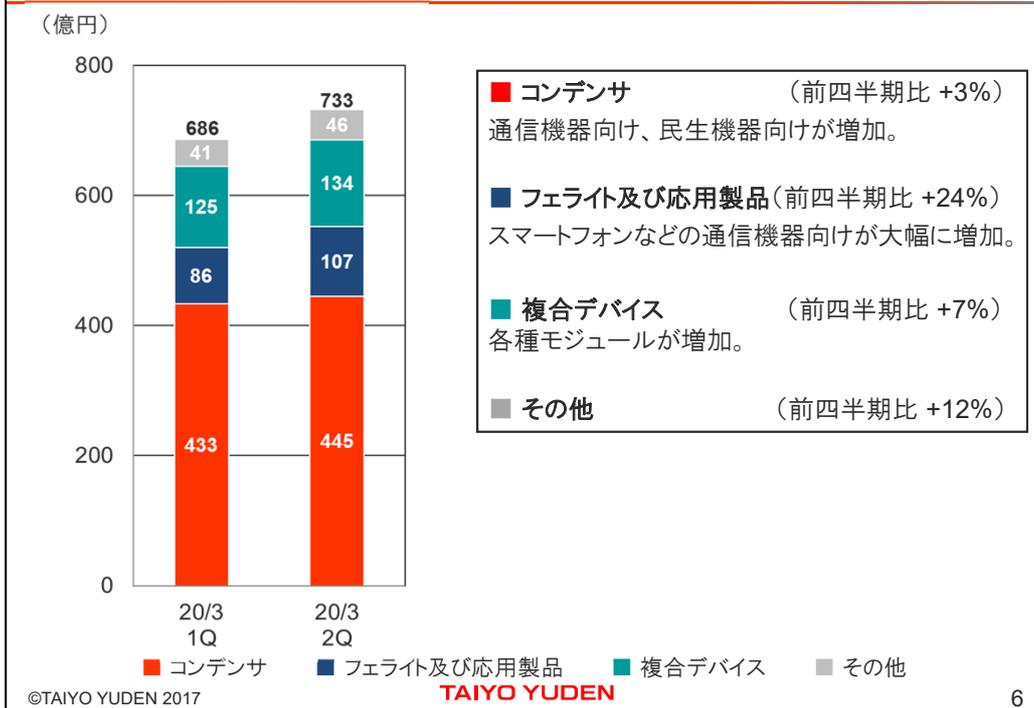
減益要因として、販売価格の値下げ18億円、
固定費の増加10億円、円高による為替影響8億円。

その結果、営業利益は第1四半期から11億円増加し、107億円。

第2四半期 製品別売上高(前四半期比)

百万円	2020年3月期 第1四半期		2020年3月期 第2四半期		増減	
	売上高	前年同期比	売上高	前年同期比	増減額	増減率
コンデンサ	43,338	63.1%	44,473	60.7%	1,134	2.6%
フェライト及び応用製品	8,633	12.6%	10,742	14.7%	2,108	24.4%
複合デバイス	12,523	18.2%	13,436	18.3%	912	7.3%
その他	4,139	6.0%	4,620	6.3%	481	11.6%
合計	68,635	100.0%	73,272	100.0%	4,636	6.8%

第2四半期 製品別売上高(前四半期比)



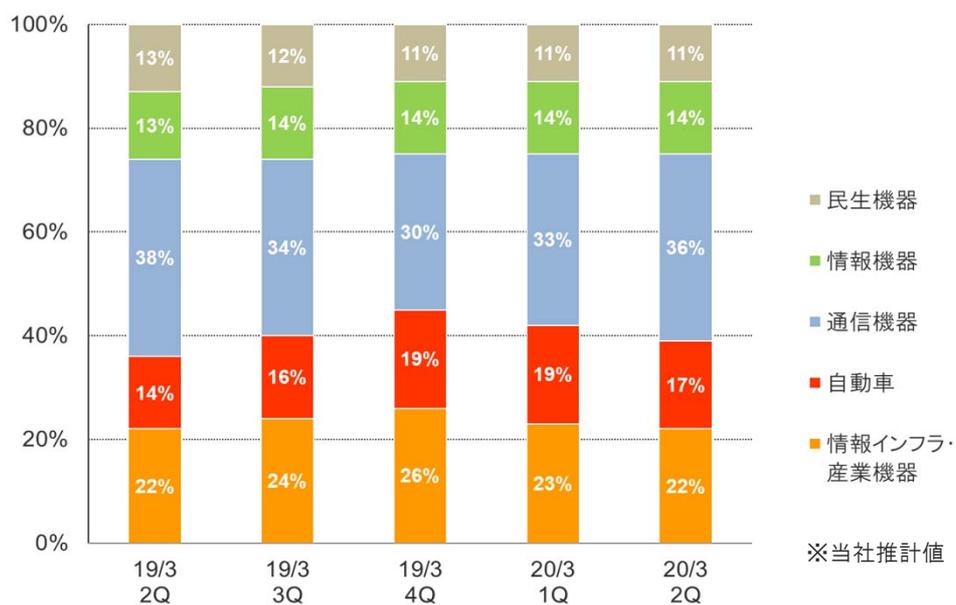
コンデンサの売上高は、前四半期比3%増の445億円。
スマートフォンなどの通信機器向け、ゲームなどの民生機器向けも増加。

フェライト及び応用製品の売上高は、前四半期比24%増の107億円。
特に、季節的に需要が高まるスマートフォン向けが大きく増加。

複合デバイスの売上高は、前四半期比7%増の134億円。
各種モジュールが増加。
なお、複合デバイスの売上に占める通信デバイスの割合は、60-65%。

その他の売上高は、前四半期比12%増の46億円。

用途分野別売上構成



©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

7

用途分野別売上構成比は、通信基地局やサーバーなどを含む情報インフラ・産業機器向けが22%、自動車向けが17%、パソコンやタブレット端末などの情報機器向けが14%、ゲームやスマートウォッチなどの民生機器向けが11%。

通信機器向けは季節的に需要が高まったため、前四半期から3ポイント上昇し36%。

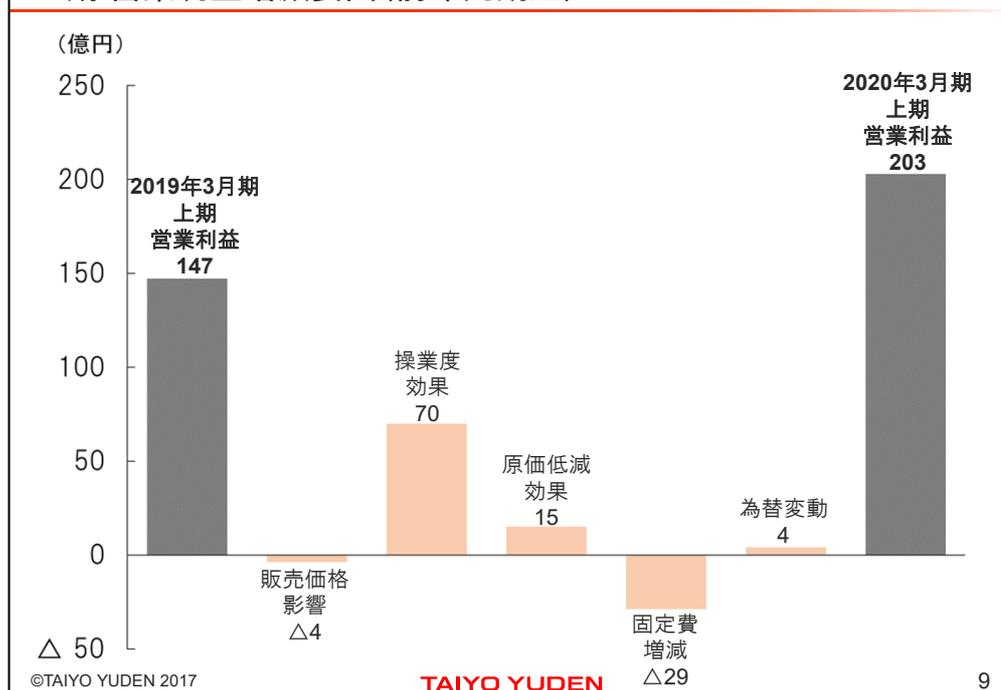
上期 連結業績概要(前年同期比)

百万円	2019年3月期 上期		2020年3月期 上期		増減		
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	
売上高	133,565	100.0%	141,908	100.0%	8,343	6.2%	
営業利益	14,703	11.0%	20,298	14.3%	5,595	38.1%	
経常利益	15,385	11.5%	19,176	13.5%	3,791	24.6%	
親会社株主に 帰属する当期純利益	10,980	8.2%	15,332	10.8%	4,351	39.6%	
対米ドル期中平均レート	109.30円		109.26円		0.04円円高		
為替変動による影響額	売上高 △10億円、営業利益 +4億円 ※米ドル以外の通貨影響含む						
研究開発費	6,567		6,425		△142	△2.2%	
設備投資額	13,106		17,350		4,244	32.4%	
減価償却費	12,527		12,898		371	3.0%	
©TAIYO YUDEN 2017				TAIYO YUDEN		8	

上期の売上高は1,419億円、前年同期比6%増収。
 営業利益は203億円、前年同期比38%増益。
 経常利益192億円、親会社株主に帰属する当期純利益153億円。

前年同期から大幅な増収増益となり、
 売上高と親会社株主に帰属する当期純利益は、半期ベースで過去最高を記録
 。

上期 営業利益増減要因(前年同期比)



上期 営業利益の増減要因として、操業度効果70億円と原価低減効果15億円、為替変動による影響額4億円。

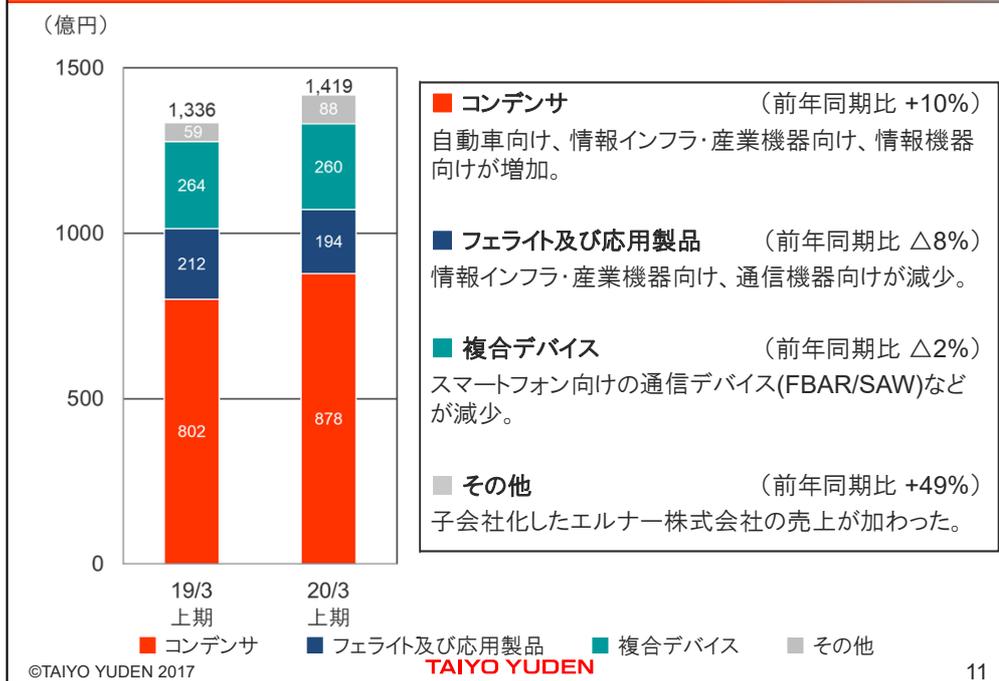
一方、減益要因として、固定費の増加29億円。販売価格の値下げ4億円も営業利益にマイナス影響を与えたが、価格是正の効果により、値下げは従来より緩やかなペースだった。

この結果、上期の営業利益は203億円。

上期 製品別売上高(前年同期比)

百万円	2019年3月期 上期		2020年3月期 上期		増減	
	売上高	前年同期比	売上高	前年同期比	増減額	増減率
コンデンサ	80,168	60.0%	87,812	61.9%	7,643	9.5%
フェライト及び応用製品	21,154	15.8%	19,376	13.7%	△1,777	△8.4%
複合デバイス	26,369	19.7%	25,960	18.3%	△408	△1.6%
その他	5,873	4.4%	8,759	6.2%	2,886	49.1%
合計	133,565	100.0%	141,908	100.0%	8,343	6.2%

上期 製品別売上高(前年同期比)



コンデンサは自動車向け、情報インフラ・産業機器向け、情報機器向けが増加し、前年同期比10%の増収。

フェライト及び応用製品は、情報インフラ・産業機器向けや通信機器向けが減少し、前年同期比8%の減収。

複合デバイスは、スマートフォン向けの通信デバイス(FBAR/SAW)などが減少し、前年同期比2%の減収。

その他の増加は、子会社のエルナー株式会社のアルミニウム電解コンデンサなどが2019年3月期 第2四半期から加わったため。

**2020年3月期
連結業績予想**

2020年3月期 連結業績予想

百万円	2019年3月期		2020年3月期 予想		増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上高	274,349	100.0%	290,000	100.0%	15,651	5.7%
営業利益	35,237	12.8%	38,000	13.1%	2,763	7.8%
経常利益	34,351	12.5%	37,000	12.8%	2,649	7.7%
親会社株主に 帰属する当期純利益	23,687	8.6%	25,000	8.6%	1,313	5.5%
対米ドル期中平均レート	110.49円		110.00円		0.49円円高	

- 通期業績予想は、5月に発表した期初予想から見直しをしていない。
- 2019年10月の台風19号により、子会社の福島太陽誘電で浸水被害が発生。
- 連結業績に与える影響を調査中。

2020年3月期の通期業績予想は、
5月に発表した期初予想から見直しを行っておりません。

なお、2019年10月の台風19号により、インダクタの生産拠点である
子会社の福島太陽誘電で浸水被害が発生。
年内には生産を再開し、引き続き早期の完全復旧に努めていく。

連結業績への影響は調査中であり、現時点で合理的な算定は困難。
調査の結果、開示すべき事項が発生した場合には速やかにお知らせする。

2020年3月期第3四半期 製品別売上高予想

百万円	2020年3月期 第2四半期	2020年3月期 第3四半期予想 (前四半期比増減)
コンデンサ	44,473	同水準
フェライト及び応用製品	10,742	△13-17%
複合デバイス	13,436	△3-7%
その他	4,620	△5-10%
合計	73,272	△2-5%
対米ドル期中平均レート	107.58円	(前提) 108.00円

第3四半期の全社の売上高イメージは、
第2四半期に対してマイナス2-5%と想定。
コンデンサはほぼ横ばい、フェライト及び応用製品はマイナス13-17%、
複合デバイスはマイナス3-7%、その他はマイナス5-10%を見込む。

為替レートは、1米ドル108円の前提。

なお、全社の12月末の在庫は、9月末よりも10億円減少する見通し。

補足資料

連結業績推移(四半期)

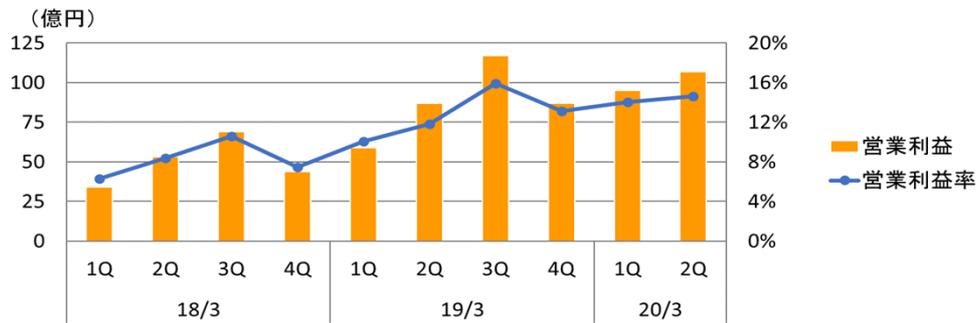
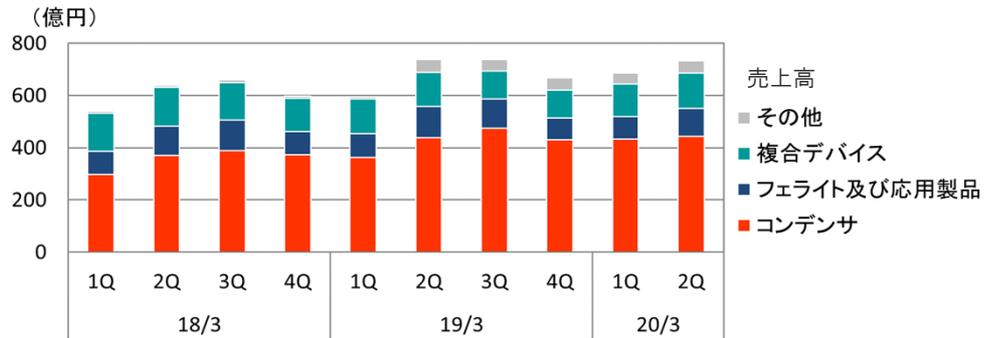
百万円	2018年3月期				2019年3月期				2020年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	54,072	64,107	66,053	59,883	59,576	73,989	73,963	66,820	68,635	73,272
コンデンサ	29,747	37,019	38,800	37,290	36,184	43,984	47,362	43,101	43,338	44,473
フェライト 及び応用製品	8,847	11,376	11,746	9,006	9,228	11,926	11,209	8,231	8,633	10,742
複合デバイス	14,711	14,871	14,533	12,722	13,208	13,160	10,783	10,778	12,523	13,436
その他	766	840	972	863	954	4,918	4,607	4,708	4,139	4,620
営業利益	3,412	5,362	6,985	4,460	5,981	8,722	11,789	8,744	9,595	10,703
経常利益	4,421	5,599	6,596	3,935	6,896	8,489	11,403	7,562	8,846	10,330
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,113	4,265	5,301	3,675	5,645	5,334	9,069	3,638	7,151	8,180
対米ドル 期中平均レート	111.81円	111.11円	112.23円	110.62円	107.76円	110.84円	112.71円	110.64円	110.95円	107.58円

©TAIYO YUDEN 2017

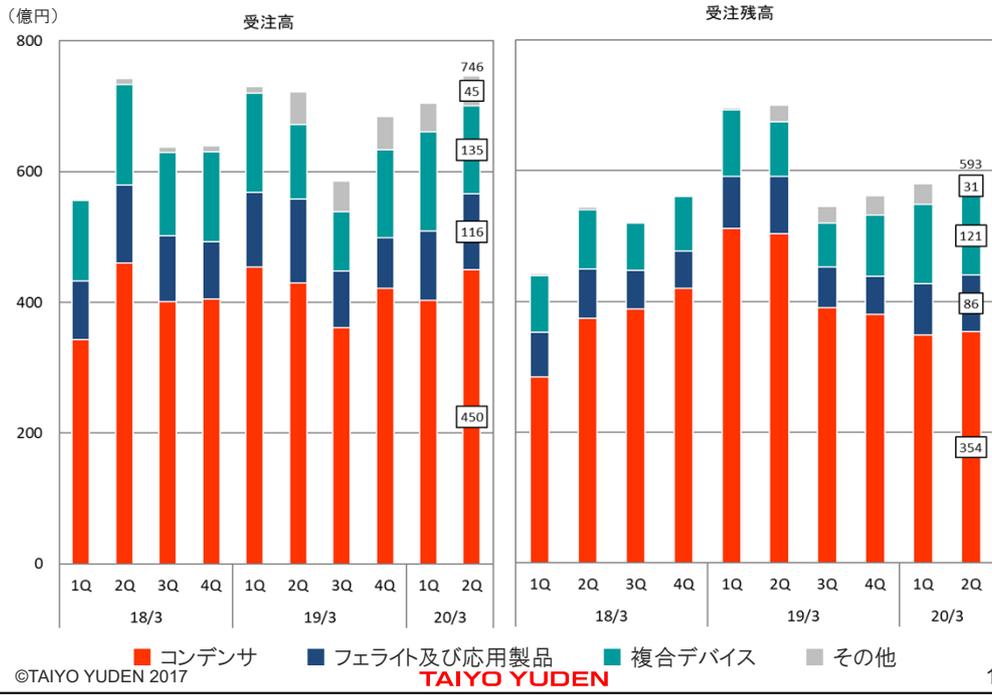
TAIYO YUDEN

16

連結業績推移(四半期)



受注高・受注残高推移(四半期)



当資料に記載されている、当社(太陽誘電株式会社、および当社グループ)に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことから、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

TAIYO YUDEN

©TAIYO YUDEN 2017